



# 報告2

日本語教育センター設立10周年記念シンポジウム

## 学部留学生対象の日本語科目 【日本語教育センター開講科目】

長谷川 哲子

(西宮上ヶ原キャンパスコーディネーター／経済学部)

+

○ 学部留学生を対象  
に開講されている  
日本語科目

・ 必修科目

・ 選択科目

○ 必修科目：週2回

1年次：日本語Ⅰ・Ⅱ

- ・ レポートライティング
- ・ 口頭発表
- ・ ディベート

2年次：日本語Ⅲ・Ⅳ

- ・ ビブリオバトル → 書評文
- ・ ディスカッション
- ・ 小論文（調査、分析、執筆）

○ 選択科目：KSCでも開講

【日本語Ⅳ修了後】

ビジネス日本語A、B、C

# めざす 学生像

(日本語 I ~ IV)

大学での専門的な学びの土台となる日本語の言語技能を習得している。

日本語 I ~ IVに通底

論理的かつ批判的に思考し、問題解決や課題探究を自律的に進めることができる。

レポートライティング、口頭発表、ディベート

社会との関わりを意識しながら、多様な価値観を受容し、主体性と協働性を発揮できる。

ビブリオバトル、ディスカッション、小論文

+

•

## ○ 多文化共生に関わる取り組み

### ① 日本語Ⅳ LA参加

#### 1. 履修者へのサポートを通じたLAの学び

- ・ LA自身の意識変容

#### 2. LAの語りを通じた履修者の学び

- ・ 学部留学生（日本語Ⅳ単位取得済）がLAとして活躍
- ・ 当事者の語りが与えるインパクト

+

•

○

## 多文化共生に 関わる取り組み

### ②ビジネス日本語 LA参加

#### 1. 就活経験学生の経験談

- ・ 同じ大学で学ぶ学生によるリアルなナラティブからの学び：説得力 大

#### 2. 教室

= プチダイバーシティ環境

- ・ 日本人学生の考えを聞きたい
- ・ 留学生の母文化との比較
- ・ [日本人／外国人] のような単純な二項対立を超えた多様な価値観

## 今後の課題

言語技能

自律性

多様な価値観受容  
をもとに



- ・ 相互の交流に関するニーズの把握
- ・ 個々の学生が持つ多様性に気づく交流の創出、継続
- ・ 協働での学び合いが促進されるような授業のデザイン



ルーツ(名称としての「留学生」)から、  
お互いのルート(今ここに至る過程)へ (渋谷2013)

## 引用文献

・ 渋谷真樹(2013)

「ルーツからルートへ ―ニューカマーの子どもたちの今―」

『異文化間教育』37,1-14.